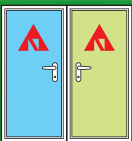


# 名古屋芸術大学グループ 通信

20  
July  
2012

Feature



興味に合わせた  
自由度の高い学びを可能とする  
ふたつの扉

## “新”美術学部へ

### Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

#### NUA-OG

ムダな経験ってないですよ  
伊藤里佳

#### NUA-STUDENT

いろんな音、いろんなリズム、  
弾いて楽しんでます。  
音楽学部演奏学科電子オルガンコース 4年  
小野翔子

### Lecture [レクチャー]

特別講義や講演会など  
■ 2012年度前期「デザインと文化1」  
[ゲスト講師: 降旗千賀子氏]

### International exchange

**Activity [国際交流活動]**  
海外の学術姉妹提携校との交流活動など  
■ パリ・エコール・ノルマル音楽院副学長  
Jean-Louis Mansart氏による  
公開講座が行われました

### News/topics

ニュース&トピックス  
人間発達学部  
■ 文化創造セミナー  
「人間というのはどのような存在なのか」  
が開催されました  
[講師: 高谷 清氏]  
音楽学部  
■ 音楽学部同窓会主催  
第31回 新人演奏会が行われました  
音楽学部・人間発達学部  
■ 2012年度 音楽学部・人間発達学部  
教育懇談会が開催されました  
美術学部・デザイン学部  
■ 2012年度 ASDセンター企画展  
BITE-SIZE 日英テキスタイルアート  
交流展が開催されました  
■ アート×トークvol.3  
「ジェームズ・タレル」作品の魅力を語る  
[講師: 竹葉 文氏]  
■ 特別客員教授 檜原 由比子氏の  
ワークショップがスタート

グループ校特集  
名古屋芸術大学附属 クリエイティブ園  
附属の利点を活かした大学各学部との交流  
コラムNUA  
葛飾北斎と名古屋  
音楽学部教養部会教授 岸野俊彦

### Master Artist

マスターアーティスト  
作品は人なり  
大学院美術研究科 美術専攻  
美術学部 アートクリエイターコース  
版画コース  
教授 西村正幸

### Information

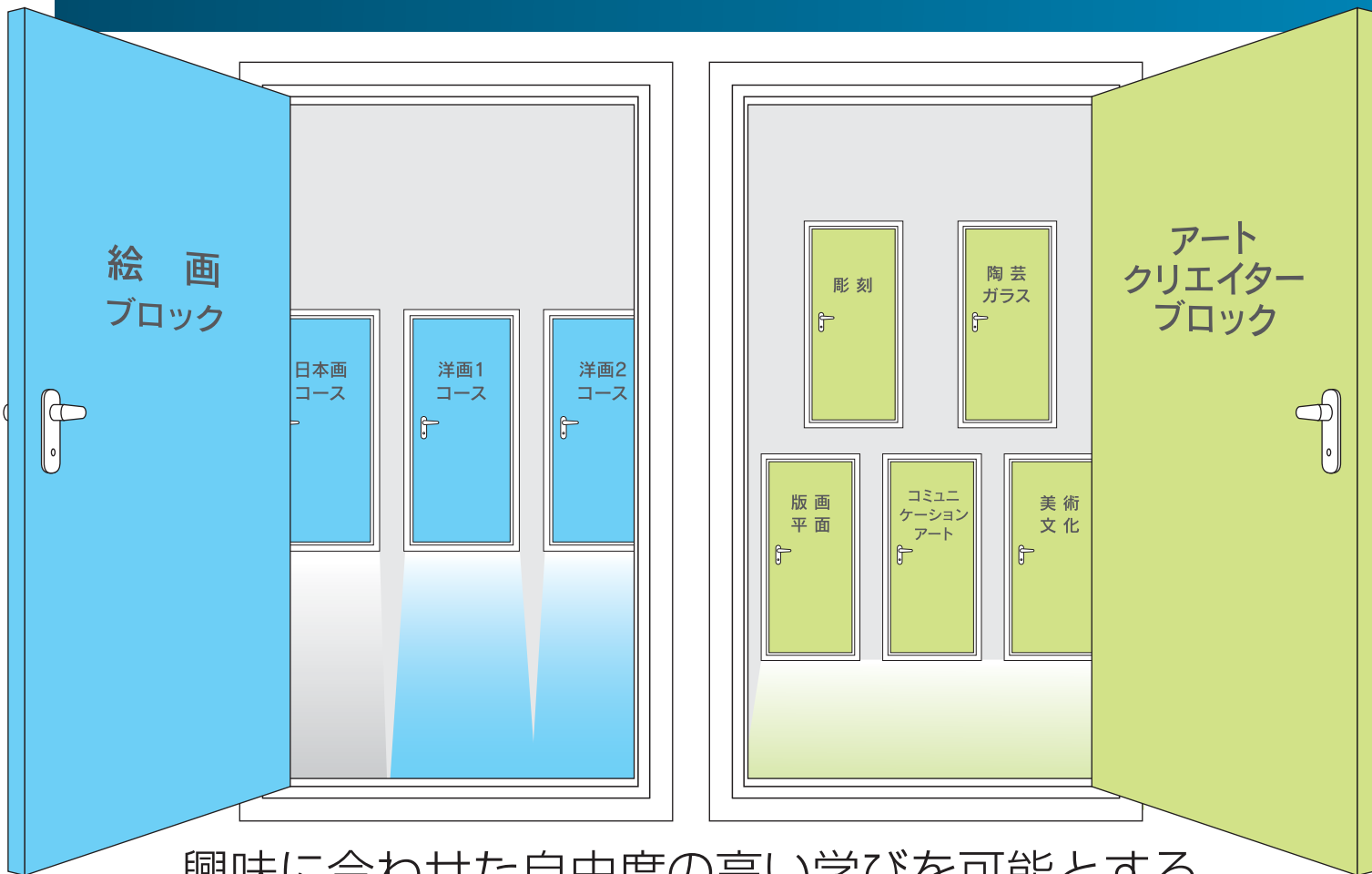
インフォメーション  
■ 教員著作(翻訳)の出版物のご紹介  
■ 2012年度 オープンキャンパス日程  
■ アート&デザインセンター  
2012展覧会スケジュール(7月~11月)  
■ 2012年度 音楽学部  
演奏会スケジュール(7月~11月)



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学 / 大学院: 音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科 人間発達学研究所  
学部: 音楽学部 美術学部 デザイン学部 人間発達学部  
■名古屋芸術大学保育・福祉専門学校  
保育科 介護福祉科  
■名古屋芸術大学附属クリエイティブ園  
■滝子幼稚園



興味に合わせた自由度の高い学びを可能とする  
ふたつの扉



## “新”美術学部へ

学生自身の興味と意欲に基づき、平面・立体、アート・デザインなど、従来の枠組みを横断して学ぶことのできるアートクリエイターコースが、2013年度からさらに強化され、美術学部全体の編成も大きく変わることとなります。2013年度から美術学部は、アーティストの養成を見据えた専門基礎教育を行う日本画と洋画の「絵画」ブロック、これまでの彫刻、陶芸・ガラス、版画・平面、コミュニケーションアート、美術文化などの全分野の基礎を体験し専門分野を促進する「アートクリエイター」ブロックの2つのブロックとなります。アートクリエイターコースが始まったのが、2008年のこと。4年を経て、初めての卒業生を輩出し、さらなる変革が行われようとしています。美術学部の再編とアートクリエイターブロックの拡大が目指すものを伺いました。



### 選択することが“力”になる | 神戸 峰男 美術学部 学部長

変えることの良さを変えないところの良さ、その両面の大切さを大事にしていきたいというのが、私なりに考えていることです。名古屋芸術大学が40年間築いてきたものをただ捨てようとは思っていません。日本画、洋画と云った絵画領域についてはこれまで培われてきたことをより大切にします。また、彫刻、工芸、版画など工房制作を必要とする領域は、コンテンポラリーな部分も含めしっかりと変えていく。その両者がそれぞれ響き合い強化されるようにと考えています。

アートクリエイターコースには、これまで4年間の実績があります。私自身が直接学生に

教える機会は少なくなっていますが、授業の場を見るにつけ、とても良いものになってきていると自負しております。先生方は、学生たちのいいところを引き出そうと懸命になってやっております。従来、芸大にやってくる学生は、入学の時点でデッサンであるとか非常に専門的なスキルを身につけて入ってくるのが必須条件でした。しかしながら、現状の中高の教育では美術のカリキュラムが減少し、ことにガラス、陶芸、彫刻などの分野については実技経験を有する入学生が減ってきています。スキルの面では、これらの領域では従来のアートクリエイターコースとほぼ同

## ▶ “新”美術学部 ここがポイント

**美術学部は、2つのブロックに**

絵画ブロックとアートクリエイターブロックの2つに再編

**多彩な入試選考方法**

デッサン以外の、実技課題、持参作品などで受験ができる

**入学前スクーリングを実施**

入学までに8回の入学前スクーリングを行いスキルを向上、安心してカリキュラムに臨むことができる

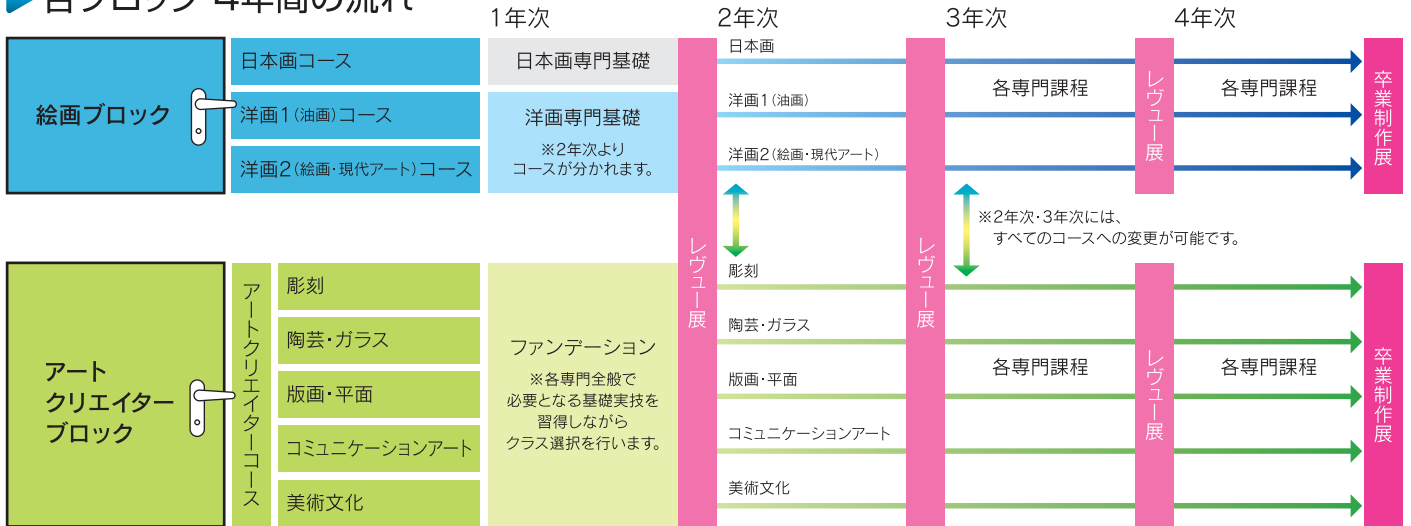
**あらゆる分野の基礎が学べる**

アートクリエイターコースでは、1年次にすべての領域の基礎トレーニングを実施、基礎力が身につけられる

**2・3年次にコース変更可能**

担当教員と面談を行い1年間の修得成果を確認、目標を立て転コースの判断ができる

## ▶ 各ブロック 4年間の流れ



## ▶ 入試について

日本画	洋画	入試領域	アートクリエイター		
●	実技課題/面接	AO	①実技課題/面接	②課題小論文/面接	●
着彩/面接	①デッサン/面接      ②着彩/面接	推薦	①持参作品/面接	②小論文/面接	●
ポートフォリオ/面接	ポートフォリオ/面接	指定校	①ポートフォリオ/面接	②課題小論文/面接	●
持参作品/面接	持参作品/面接	地域	①持参作品/面接	②小論文/面接	●
着彩/面接 (学科試験)	①デッサン/面接 (学科試験)      ②着彩/面接 (学科試験)	A日程	①発想/考え方/面接 (学科試験)	②デッサン/面接 (学科試験)	②小論文/面接 (学科試験)
●	●	センター前期	●		
持参作品/面接 (学科試験)	持参作品/面接 (学科試験)	B日程	①持参作品/面接 (学科試験)	②小論文/面接 (学科試験)	●
●	●	センター後期	●		

※① ②のいずれかを選択できます。

※① ② ③のいずれかを選択できます。

じ条件となります。それならば、これらの領域も加えアートクリエイターを補強し、同時にさまざまな領域の基礎教育を行い、体験を重ねるというのが今回の再編のひとつの目的です。

これまでのアートクリエイターコース4年間には問題点も残りました。想定では、3年に進級する段階で、学生たちがもっと専門分野を選択してくれるのではないかと考えていました。しかしながら、実際にはアートクリエイターコースのまま卒業を迎えた学生が8割と予想以上の数となりました。その選択が間違いとは思いませんが、これからは、アートクリエイターコースに専門性の高い先生が増えるわけですから、もっと踏み込んだところまで

のカリキュラムが可能になり、これまで以上に学生の興味に応えられることとなります。その中で、選択決断するというのを、学生たちには学んで欲しいと思っています。どの専門を選択するかで悩むことになるかもしれませんが、そうして悩むことが力になります。また変化を恐れず自分の決断に責任を持つとする力もつくはず。そうした中で、生涯、アートと取り組んでいくための基礎体力を養って欲しいと思います。

ここからは私見ですが、学生たちには達成感も味わって欲しいと思っています。失敗してもいいのでとにかくやりきったという達成感を、一度でもいいので感じ取って欲しいと考えています。美術というのは、音楽などの

分野と異なり、技術が向上すれば表現が深まると一概に言えるものではありません。スキルを磨くよりも、自分自身を見つめ、決断してやりきること。評価を気にせず自分の仕事としてやりきること。問題を自分で解決することを、学生たちには体験して欲しい。選択決断することが力になるということを実感して欲しいと思っています。学生たちの自主性に大きくゆだねることになりますが、それこそが美術学部の特性でありたいと考えています。





## アート クリエイター コース



Creative  
Arts  
Practice  
COURSE

AO入試（8月末）からA日程入試（2月）までの合格者を対象に10月から3月の間に8回の「合格者入学前スクーリング」を実施し、入学時に備えました。



「アイデア・スケッチ  
とドローイング体験」  
(11月)



「デッサンを楽しむ」  
(12月)

「医療と美術」や「子どもと美術」など社会における美術・デザインの役割を担うために、密接に関わりを持ちます。



県営名古屋空港の「クリスマス・ディスプレイ」(2011年)



### —4年前にアートクリエイターコース自体は始まっていますが、その発端は？

高校の美術教師になった卒業生など、学生を教える立場になった卒業生たちと話をしている中で、彼らが学生たちから相談を受けるわけです、美術系の大学に行きたいと。これまでなら「何をあいてもデッサンをやらなければいけないよ」となったわけですが、経済的な理由や時間的な問題で、誰しもすぐに画塾へ行ったり先生について練習ができるわけではありません。それでも、すごく熱意があったり、ものづくりが好きであったりと、そういう学生がいます。それを何とかしたいというのが発端です。

### —美大を受験するにはデッサンが必須、というのはいわば常識ですが……

そうですね、まずデッサンの試験をやらないということを考えました。入試のレベルを下げるのではなく、デッサンはやらないけど造形力があるとか、色彩感覚が豊かとか、それらで受けられるような入試方法があれば、これまでのデッサンありきの選抜方法よりも、受ける側にも、学校側にも、新しい可能性があるのではと考えました。

### —具体的にどんな選考を行うのですか？

入試方法は、もちろんデッサンが得意な人はデッサンでも受けられる。AO入試の場合は、事前にテーマを与え、それに対し絵なり、

## 「人を育てよう」という姿勢を更に強化

西村 正幸

アートクリエイターコース 教授

何か作品を制作してきてもらい、面接というかプレゼンで選考します。面接といっても砕けたもので、いわゆる面接の作法みたいなものを見るものではなく、極端な話し“タメ口”でもよくて、制作の考えや取り組みの様子を聴きます。それで、課題に対して何かひとつでも一生懸命に取り組んでいるところが見つかれば合格です。課題を自分のこととして引き寄せて考え、出された課題について取材したり、もっと単純にたくさんの絵を描いてきたり、とにかく一生懸命に取り組んでいるところがあれば入学させて、4年間で育てようと考えています。今まで芸大に来ることがなかったタイプの若者に入り口を設けようという考えです。

### —熱意や気持ちと、それに伴う努力があればいいというわけですね。スキルの点で問題などはありませんか？

その点は、学校側はもちろん、学生側に大きな不安があると思います。それなので入学までにスクーリングを行い、スキルを上げて不安をなくして入学してもらおうとケアしています。AO入試は9月に合否判定が出ます。入学まで半年ありますのでそれまでの間、毎月、デッサンの時もあれば、考え方をどうやって作品にしていこうかという授業をやったり、6ヶ月で8回の講座を開きます。面白いもので、半年の間に大学生になっていくんですよ。学生同士でコミュニケーションを取ったり、スムーズに入学を迎えられています。

### —さて、2013年度からはアートクリエイターコースが拡充されます。どんなものになりますか？

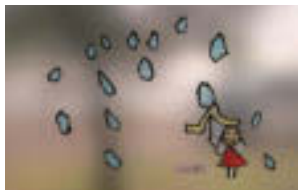
様々なクリエイターを育てようという姿勢に変化はありません。改変では、この姿勢をさらに強化したいと考えています。現在、小

中高の美術の時間が減ってしまい、学生たちの美術に対する経験が減っています。経験が少ないため、日本画にしようかデザインにしようかでさえも、どちらか決めかねるくらいに決められないのが現状なんです。4年間アートクリエイターコースを見てきて、学生たちの経験値を上げることができれば、より深い興味や面白さを抱かせることができるとわかりました。これまで、1年の時に、入門的な講座を用意していましたが、これからは、さまざまな領域でその先のグレードの講座を提供することができるようになります。より深い学生たちの欲求に応えられる体制を整えられるようになると思います。

### —学生たちがさまざまな領域に関心を持てるようになることが、さしあたっての目標となりますね。

課題はたくさんあります。4年間やってみて、期待以上によかったものもあれば、あまり効果的じゃなかったというものもあります。それらを精査して次のステップへ結びつくようなカリキュラムの骨子は出来上がっています。専任の教員は、コーディネーターなのかと思っていました。実務はおもに非常勤の先生方をお願いしているという形で、僕はそれらを結びつけるコーディネーターだと。スクーリングもそうですね仕事が増えるばかりで、非常に忙しいです(笑)。ですけど、現場で関わっている我々はやる気まんまん！なんだということを知っていただきたい。学生たちは、初めは淡い気持ちで入ってくるのかもしれませんが、アートというのが世の中にとって大事なジャンルなんだということを学んで、世に出て行って役に立って欲しいと思っています。





附属クリエ幼稚園年長園児対象のワークショップで園児が、木工ボンドと食紅で制作した「なんちゃってステンドグラス」(1999年より継続)



愛知県がんセンター愛知病院での患者さん対象の消しゴムはんこ教室(2009年より継続)

高山市の廃校での「朝日・高根百景プロジェクト」の木版画行灯作り(2011~2012年)高山市教育委員会との官学連帯プロジェクト。文部科学省予算による。(小学生4年生~中学3年生対象)



学生たちの制作は、絵画、立体、版画、メディアなど多岐にわたり、学んだスキルや、対外的なプロジェクトの経験を生かした結果、2011年度の就職・進学率は80%と学内で最も高い実績を残しました。

1~3年生対象の「レギュール展」(毎年2月に学外で開催)



アイデアで溢れているアトリエの一角

「卒展」出品のイラストレーション



「卒展」出品の立体作品



「卒展」展示風景

# Entexit エンタジット

Entexitはentrance(入口)とexit(出口)を合わせた造語です。大学の入試(入口)や就職・進学など(出口)の情報をお知らせするコーナーです。

## 名古屋芸術大学2013年度入試日程

学部	入試種別	登録期間	診断日	結果発表日
■ 音楽	AO入試エントリー(A)	7月 9日~ 7月27日	8月6日~9月9日	9月12日
	AO入試エントリー(B)	8月20日~ 8月31日	9月 9日	9月12日
■ 人間発達	AO入試エントリー	8月 9日~ 8月23日	9月 2日	9月 7日

〈注〉AO入試(A)は、演奏学科声楽・ピアノ・電子楽器・弦管打各コース。  
AO入試(B)は、演奏学科音楽総合コース、音楽文化創造学科全コース。

学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日	
■ 音楽	AO入試(A)(B)	9月13日~ 9月27日	10月 7日	10月12日	
	推薦入試	10月10日~11月 1日	11月10日	11月16日	
	3年編入試(前期)	10月10日~11月 1日	11月10日	11月16日	
	3年編入試(後期)	1月 8日~ 1月21日	2月 6日	2月12日	
	一般A日程 社会人・留学生入試	1月 8日~ 1月21日	2月5日・6日	2月12日	
	特待生入試	1月 8日~ 1月21日	2月 6日	2月12日	
	一般B日程 社会人・留学生入試	2月15日~ 3月22日	3月25日	3月26日	
	■ 大学院 音楽研究科	A日程入試	11月 2日~11月16日	12月 1日	12月 7日
		B日程入試	2月15日~ 3月22日	3月25日	3月26日
	■ 研究生	研究生入試	2月15日~ 3月 5日	3月12日	3月14日
■ 美術	AO入試	8月 2日~ 8月16日	8月25日	8月28日	
	推薦入試	10月11日~10月25日	11月 4日	11月 9日	
	3年編入Ⅰ期入試	10月18日~11月 1日	11月10日	11月16日	
	地域入試(浜松・金沢)	11月 7日~11月21日	12月 1日	12月 7日	
	A日程第一方式(センタープラス)	1月10日~ 1月24日	2月 5日	2月12日	
	A日程第二方式(一般試験)	1月10日~ 1月24日	2月 5日	2月12日	
	社会人入試	1月18日~ 2月 1日	2月11日	2月15日	
	社会人シニア・社会人3年編入入試	1月18日~ 2月 1日	2月11日	2月15日	
	3年編入Ⅱ期入試	1月18日~ 2月 1日	2月11日	2月15日	
	センター利用入試(前期)	1月21日~ 2月 4日	センター試験のみ	2月15日	
	B日程第一方式(センタープラス)	2月21日~ 3月22日	3月25日	3月26日	
	B日程第二方式(一般試験)	2月21日~ 3月22日	3月25日	3月26日	
	センター利用入試(後期)	2月21日~ 3月22日	センター試験のみ	3月26日	
	■ 大学院 美術研究科	Ⅰ期入試	10月18日~11月 1日	11月10日	11月16日
Ⅱ期入試		1月21日~ 2月 4日	2月12日	2月15日	
■ 研修生	研修生入試	1月21日~ 2月 4日	2月12日	2月15日	
■ 研究生	研究生入試	2月15日~ 3月 1日	3月12日	3月18日	
■ デザイン	AO入試	8月 2日~ 8月16日	8月25日	8月28日	
	推薦入試	10月11日~10月25日	11月 4日	11月 9日	
	3年編入Ⅰ期入試	10月18日~11月 1日	11月10日	11月16日	
	地域入試(浜松・金沢)	11月 7日~11月21日	12月 1日	12月 7日	
	A日程第一方式(センタープラス)	1月10日~ 1月24日	2月5日・6日	2月12日	
	A日程第二方式(一般試験)	1月10日~ 1月24日	2月5日・6日	2月12日	
	社会人入試・社会人3年編入入試	1月18日~ 2月 1日	2月11日	2月15日	
	3年編入Ⅱ期入試	1月18日~ 2月 1日	2月11日	2月15日	
	センター利用入試(前期)	1月21日~ 2月 4日	センター試験のみ	2月15日	
	B日程第一方式(センタープラス)	2月21日~ 3月 6日	3月15日	3月18日	
	B日程第二方式(一般試験)	2月21日~ 3月 6日	3月15日	3月18日	
	センター利用入試(後期)	2月21日~ 3月 6日	センター試験のみ	3月18日	
	■ 大学院 デザイン研究科	Ⅰ期入試	10月18日~11月 1日	11月10日	11月16日
		Ⅱ期入試	1月21日~ 2月 4日	2月12日	2月15日
■ 研修生	研修生入試	1月21日~ 2月 4日	2月12日	2月15日	
■ 研究生	研究生入試	2月15日~ 3月 1日	3月12日	3月18日	
■ 人間発達学部	AO入試	9月10日~ 9月20日	10月 7日	10月12日	
	3年編入A日程入試	10月10日~11月 1日	11月10日	11月16日	
	推薦入試A	10月10日~11月 1日	11月10日	11月16日	
	推薦入試B 社会人	11月 6日~11月26日	12月 1日	12月 7日	
	大学入学資格審査入試	11月19日~11月30日	12月5日審査、2月6日試験	2月12日	
	一般A日程入試	1月 8日~ 1月21日	2月5日・6日	2月12日	
	センター前期入試	1月 8日~ 1月28日	センター試験のみ	2月12日	
	センター後期入試	2月15日~ 3月 5日	センター試験のみ	3月14日	
	一般B日程入試	2月15日~ 3月 5日	3月12日	3月14日	
	3年編入B日程入試	2月15日~ 3月 5日	3月12日	3月14日	
	■ 大学院 人間発達研究科	一次入試	9月10日~ 9月20日	10月 7日	10月12日
		二次入試	11月 6日~11月26日	12月 1日	12月 7日
	■ 研究生	研究生入試	2月15日~ 3月 5日	3月12日	3月14日

※(注)各入試で実施されるコースや専攻の詳細及び指定校推薦など上記以外の入試については、学生募集要項を参照してください。

# Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

## NUA-ism



「flower」(2010)  
606×454mm モノプリント



Vol.41  
NUA-OG

伊藤里佳

(いとう りか)  
版画家

1981年 神奈川県うまれ北海道、愛知県育ち  
2006年 Falmouth University 交換留学  
2007年 名古屋芸術大学大学院 修了  
2008年～アートクリエイターコース実技補助員として本学に勤務  
愛知県在住

最近の主な活動

2012年 「View—明日への扉」ART LAB AICHI, 名古屋、愛知  
「scenery 360°」(個展)GALLERY APA F1, 名古屋、愛知  
「woodland gallery2012」みのかも文化の森、美濃加茂市、岐阜  
2011年 「point of view」(個展)GALLERY APA F2, 名古屋、愛知  
「International Art Workshop」gludsted, Denmark  
「第56回CWAJ現代版画展」東京アメリカンクラブ、東京  
2010年 「伊藤里佳展」See Saw gallery + cafe, 名古屋、愛知  
「contact」(個展)GALLERY SUZUKI, 京都  
など他多数

## ムダな経験ってないですよ

鮮やかな色使いと独特の形と情景が魅力的な作品たち。自然の雄大さを思わせるものや、日常のささやかな喜びを感じさせるような作品は、目にも胸にもなんとも心地良い。清々しい作風は、当然ながら一朝一夕で産まれてきたわけではない。「大学院1年生の時、混乱していた時期がありました。周りの人の作品のよさとか、その人らしさがとても良く見えるのに、それと比べて自分の作品がどうなのかよくわからない。迷ってしまっているんな技法を試しては失敗するというのを繰り返していました。ある時、基本の銅版画で制作をしたら、その方が良くて。今思えば素材や技法にばかり気がいって描きたいものと素材がかみ合っていなかったんです」こんな時期を経て出会ったのが「モノプリント」だった。「すごくシンプルですよ。アルミ版のツルツルしたところに、銅版のインクを使って描いて、紙に写し取るんです」大学でもモノプリントは授業にはなく、自分で調べ、試行錯誤を重ね、作品を作っていた。「交換留学生のファルマス大学でも、モノプリントのやり方を聞いて……。そう、絵の具が使い放題だったんですよ！ 紙さえ買えば、どれだけインクを使ってもよかったですので、色のインクをずらっと出して制作していました。それで今のような絵になってきたんです」

モノプリントの魅力について尋ねると、



「untitled」(2010)  
454×606mm

「紙にインクの付く感じ、直接、描くとインクが全部しみ込んでしまうけど、紙に写し取ることで、独特の立体感とか、筆の跡だ



とか、その感じが、ソーツ、イイ！（笑）」刷って、その都度、決められるモノプリントの「1度きり」という感覚とスピード感が、自分には合っていると話す。

留学での経験も自分の核になっているという。「向こうの大学院ではテーマとかコンセプトを考えるような授業が多かったんです。日本語で考えたことを話しても、内容が

あいまいで、再度質問されたりして、あらためてしっかりと考えさせられましたね。でも、その経験が、私の核になってると思います。ムダな経験ってないですよ」

学生時代には芸大祭の実行委員を務めた。「大変だったけど、みんなで一つのことをやるのが本当に楽しくて、先輩や後輩のたての繋がりも強く、当時の仲間とは今でも仲良しです。デザイン科の子にパソコンの使い方を教えてもらったり、毎晩のようにミーティングをして話し合ったり、毎日一生懸命でした。一見、制作とは関係ないですが、パソコンを使えるようになったことで自分でDMを作成できるようになったり、大好きな友達がたくさんできたり、一生懸命やった事に対してムダなことってないですよ。興味のあることはどんどん挑戦してやった方がいいな。って思います」大きな瞳で快活に笑う表情は、作品の世界そのままだった。



いろいろな音、いろんなリズム、弾いてて楽しいんです。



Vol.42  
**NUA-STUDENT**  
小野翔子  
(おの しょうこ)  
音楽学部演奏学科電子オルガン  
コース 4年

ていた先生の勧めもあって、岐阜の鶯谷高校の電子オルガン専攻へ行きました。だから、うーん、一筋ですね。

「じゃあ、ずっと好きでやってこれたんだ」

そう、ですね…… うーん、中学でもずっとレッスンを続けていて音楽の学校へ行ってみたくて思ったので、そのまま来ちゃった感じですね。あんまり覚えていないんですけど、幼稚園の頃、テレビとか幼稚園で習ってきた曲なんかを、ちっちゃいキーボードで弾いてみたいですね。昔から音楽が好きみたいです。

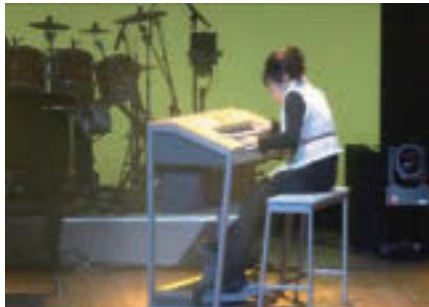
えてきた音をそのまま音符にすることはできます。

「練習は毎日どれくらいするの？」

3時間……、本当は2時間くらい（先生ごめんください！）。日によって違いますけど、集中力が続かないんですよ。はあー、練習が好きじゃないというか、嫌いなんです（笑）。学校の練習室でやるよりも自宅で練習することが多いです。夕飯を済ませて、バイトのない日は9時頃から、バイトがあると11時くらいからです。気分が乗れば遅くまでやります。それから、通学に1時間半かかるので、その間ポータブルプレイヤーで音楽を聴いて、曲を覚えてイメージするんです。しっかりイメージできると、やっぱり弾きやすくなるもんなんです。

「エレクトーンの魅力ってどんなところ？」

いろいろな音とリズム、あとは、なんだろう（笑）。やっぱり弾いて楽しい。曲の途中で、ここまでは弦で来てたのが、盛り上がってきてパツと音が変わるとき、すごく気持ちいいんです。わからないかもしれないけど（笑）。それからいろんなジャンルの曲が弾けるのもいいですね、ポピュラー系の曲もできますし。曲集を引っ張り出してきて探したりしてます。いろいろ変化するような曲が好きですね。練習してうまく弾けたとき、すごく達成感があるんです。人の前で弾くのも楽しいですけど、やっぱり自分だけで弾くのが楽しいかも。



「CELEBRATE」  
作曲：清水大輔 / 編曲：小野翔子  
名古屋芸術大学音楽学部  
電子オルガンコース  
第14回定期演奏会  
2011年12月8日  
熱田文化小劇場

「小さい頃からエレクトーンをやったの？」

幼稚園の頃からなんです。私の家の隣にエレクトーンの先生が越してきたんです。先生の子と私が同じ幼稚園で、一緒にバスを待ってるうちに、お母さん同士が仲良くなってそれで始めたんです。

「それからずっと？ イヤになることとかは？」

そうですね。嫌になったりすることはなかったですね。高校の受験の時に普通科の高校へ行こうかというので迷ったことはありますが、その一度だけ。結局、習っ

「スゴイ、弾けちゃうんだ！もしかして絶対音感？」

絶対音感なのかなあ？ 生まれてからなのでそういうのが絶対音感なのかよくわからないんです。中間的な、細かな音程の違いはよくわからないんですけど、聞こ

### 小野さんに関きました。

**換業はなし？**

テレビ見たり音楽聴いたり本読んだりゲームしたり、楽譜書いてたりします。

24:00 休憩中

22:30 練習

21:00 お風呂

19:00 休憩中

18:30 夕飯

17:00 帰宅中

16:20 授業終了

14:00 空き時間

13:00 空き時間

12:10 昼休憩

10:00 学校到着

08:30 家を出る

07:30 起床

朝早いのでかなり苦労します。

「1コー電車で1時間半くらい通学中は音楽を聴いたり、本を読んだり、携帯でネットを見えています。」

「夕食は近くのコンビニが学食です。」

「練習室を取ってエレクトーンを練習しています。」

「終わったら帰るか、1時間くらいまた練習します。」

「電車の中で寝ているとあっと言う間に着きます。」

「帰ったらすぐご飯です。」

「テレビを見たり、ゴロゴロする時間です。」

「区は音が出せないのので、ヘッドホンを付けます。」

「集中力が切れたら、もう帰っても進まないのだから止めます。」

「授業まで時間があるので、図書館などに行きます。」

「学食のおすすめメニューチャーシュー丼「美味しいんですよ。ちょっとモヤモヤです（笑）」

### ファッションチェック!

「ジャズドリーム長島で買ったワンピース。「服はブランドよりも値段重視です！」

### お小遣い・アルバイト

- お小遣い 1万5千円/月
- アパート 家賃 0万/月 (実家の岐阜から通学片道1時間半)
- アルバイト 「週3回くらい、地元岐阜の本屋さんでバイトしています。月3万5千〜4万円くらい。結構、使わないで貯める派です。」

### 持ち物検査

「楽譜は専用のカバン。楽譜を普段から持ち歩くので、カバンは2つ。お気に入りの曲「celebrate」(作曲: 清水大輔)の手書きの譜面。ペダル鍵盤も使うので3段階。「吹奏楽のための曲なんですけど、すごくいいんです。ホルンらしいというか、元気になります」

### 「通学中にこれで音楽を聴いています。ジャンルはフュージョン系が多いですね」

### 「文房具大好き!」

# Lecture

【レクチャー】  
特別講義や講演会など

## 2012年度前期 「デザインと文化1」 【ゲスト講師：降旗千賀子氏】

2012年度の「デザインと文化1」がスタートしました。デザインの現場やその周辺領域で活躍、活動されている方を講師に招き、デザインの広がりや学ぶ講座です。今期最初のゲスト講師には、目黒区美術館学芸員の降旗千賀子氏をお迎えしました。

目黒区美術館の学芸員として、画材や素材で構成した81個の引き出しによる「画像と素材の引き出し博物館」の企画制作をはじめ、「色の博物誌シリーズ」展の企画や「建築家村野藤吾のディテール旧千代田生命本社図面/写真」展、「チャールズ&レイ・イームズ」の世界-創造の遺産」展などの展覧会を手がけています。昨年は、「DOMA 秋岡芳夫展：モノへの思想と関係のデザイン」を3年の調査期間を経て実現させました。制作カタログとしては、『DOMA 秋岡芳夫展：モノへの思想と関係のデザイン』（目黒区美術館）や著書に『画材と素材の引き出し博物館』（中央公論美術出版）などがあります。

今回のセミナーでは、降旗氏が手掛けた色の博物誌、目黒区美術館のワークショップ、工業デザイナー秋岡芳夫氏についてお話を伺いました。

前半は、降旗氏が中心になって手掛けた「色の博物誌シリーズ」

展についての解説です。この色の博物誌シリーズは、1992年に開催した「青」に始まり、「赤」（1994）、「白と黒」（1998）、「緑」（2001）、「黄」（2004）と、数年ごとに開催された人気の展示。そのシリーズから今回は「赤」を中心にしたお話です。赤い色を作る色材は、酸化第二鉄の「ベンガラ」や硫化水銀の「辰砂、朱砂」といった鉱物からできているもの。「日本茜」、「紅花」といった植物から抽出したものが多く使われてきました。赤は人間が最初に色として認識した色の1つだと思われます。古くはフランスのラスコー洞窟の壁画にも使われています。日本でも縄文、弥生時代の土器や古墳内の装飾に赤が多く使われています。これは鉄分が多く含まれた土を使っているため。また、硫化水銀からなる「辰砂（しんしゃ）」は「朱赤」として、その希少性から崇めの対象として、また、薬としても使われ、中国では不老長寿の薬として扱われるほどでした。植物系の代表は「紅花」からは、赤い色素と黄の色素が採れます。紅花の赤はとても鮮やかなのが特徴です。着物の染料や口紅としても使われています。浮世絵では襦袢（じゅばん）などの赤の表現などにも用いられていました。また、紅花には殺菌作用などの薬効があるとされ、日本では肌に直接触れる襦袢や厄除け、魔除け札としての活用もされていました。人工的なものに慣れてしまった現代人にとって、天然の色材を目で触るといった感性を、デザインや色に携わる職種の方に大事にしてほしいと降旗氏は伝えました。

後半は、秋岡芳夫氏(1920-1997)の展覧会を中心に、物の見方、取り組む姿勢についてのレクチャーが行なわれました。

戦後の工業デザインの基礎を作ったと言われる秋岡芳夫氏は、60年代に工業デザイナーとして数多くの秀逸な工業製品を世に多く送り出した反面、70年代に入ると高度成長期の消費文化に対して背を向け、モノの魅力や手の仕事の大切さをいち早く唱え、「消費者をやめて愛用者になろう！」という運動を推進し、地方のクラフト運動などを積極的にサポート



1 ゲスト講師の降旗千賀子氏



2



3

- 2 1994年に目黒区美術館で開催された「色の博物誌シリーズ」展のパンフレット
- 3 降旗氏が手掛けた「画像と素材の引き出し博物館」。画材や素材などを81個の引き出しに納めた展示スタイル
- 4 浮世絵の襦袢の赤には植物系の「紅花」で鮮やかな赤を表現した
- 5 目黒区美術館のワークショップのモよう
- 6 「DOMA 秋岡芳夫展：モノへの思想と関係のデザイン」に合わせて出版された書籍カバー（デザイン：中野豪雄）
- 7 秋岡芳夫氏の代表作の1つ「科学と学習」の付録教材



4



5



6



7

した人物です。現在の工業デザインやクラフトマン運動に対する秋岡氏の功績は大きく、これからデザインを目指す学生たちにとって、目標とすべき人物の一人といえます。降旗氏から伺った秋岡氏の仕事から、デザイナーとして、人としてどのように社会と向き合い、何を提供することができるかを気付かされる機会となりました。

した人物です。現在の工業デザインやクラフトマン運動に対する秋岡氏の功績は大きく、これからデザインを目指す学生たちにとって、目標とすべき人物の一人といえます。降旗氏から伺った秋岡氏の仕事から、デザイナーとして、人としてどのように社会と向き合い、何を提供することができるかを気付かされる機会となりました。

# International exchange Activity

【国際交流活動】  
海外の学術姉妹提携校との  
交流活動など

## パリ・エコール・ノルマル 音楽院副学長 Jean-Louis Mansart氏 による公開講座が 行われました

2012年5月8日(火)、名古屋芸術大学東キャンパス3号館ホール

で、本学の姉妹提携校であるパリ・エコール・ノルマル音楽院の副学長Jean-Louis Mansart氏を特別講師とした公開講座が開催されました。

第1部は、ピアノコース4年生の演奏に対する公開の個人レッスンで、一曲目は、永田紘子さんのドビュッシーの『「版画」より塔』に対する指導でした。

まず、曲目の解説とともに、当時の社会情勢などをふまえた作曲者の心情や作風などについてのお話がありました。

『版画』は、1903年に完成されたピアノ曲編で、この作品はしば

しばドビュッシーが印象主義的なピアノ技法を確立した作品と評されています。全体は3曲から構成されていて、第1曲の「塔」は、ドビュッシーが1889年にパリで開催された万国博覧会で、パリ島民の演奏するガムラン音楽を聴き、深く興味を持ち、この曲はその影響を反映したといわれています。五音音階を用いた東洋風な主題が、変化し、繰り返され、独特の雰囲気をつくりあげています。

二曲目は、秀平雄二君が演奏したラヴェルの『「夜のガスパール」よりオンディーヌ』でした。『夜のガスパール』は、ルイ・ベ

ルトランの詩集、およびそれを題材にしたラヴェルのピアノ組曲です。ラヴェルは1908年、ベルトルランの詩集から3曲のピアノ独奏曲を作曲しましたが、「オンディーヌ」はその第1曲です。終始細かいアルペジオが左右で入り組む難曲です。形式はソナタ形式で、詩の内容に忠実に基づいているといわれています。

このような解説講義の後、曲の中の重要又は難解な旋律のパートについて、具体的な引き方のアドヴァイスが行われました。また、自身が模範演奏をすることで演奏の手法を教授していただきました。



第2部は、パリ・エコール・ノルマル音楽院と名古屋芸術大学との交流作品演奏会で、3曲が演奏されました。

プログラムは、本学の堀田秀雄教授が作曲した「変容」-フルートとヴァイオリンとピアノのための音楽-(Fl. 磯貝俊幸 Vn. 藤竹悠衣 Pf. 菅原美枝子)。続いて、Jean-Louis Mansart 副学長が作曲された「LE JOUR NAISSANT」(Fl. 磯貝俊幸 Pf. 山田敏裕)。最後は、本学の田中範康教授の作曲



した「相克の時」(Cl. 竹内雅一 Pf. 山田敏裕 Mallets 石田まりこ)



でした。会場を埋めた学生や来場者から



盛大な拍手が送られていました。

# News & Topics

ニュース&トピックス

## 人間発達学部

### 文化創造セミナー 「人間というのは どのような存在なのか」が 開催されました 【講師:高谷 清氏】

2012年6月2日(土)、名古屋芸術大学東キャンパスで、文化創造セミナーが開催されました。このセミナーは、人間発達学部の学生、卒業生、そして幼児教育などに関心を寄せる一般の方を対象にした公開講座です。今回のゲスト講師には、重症心身障害児施設「びわこ学園医療福祉センター」で園長を務められ、現在も非常勤講師として勤務する小児科医の高谷清氏です。高谷氏は、1964年京都大学医学部を卒業。1967年より第一びわこ学園(現びわこ学園医療福祉センター)に勤務。40年以上に亘り、重症心身障害児の療育に携わってきました。

セミナー冒頭で高谷氏は、「このセミナーでは、寝たきりや知的障害、人工呼吸器などが無ければ生きて行くのが困難な、重症心身障害児(者)の方の話をするではありません。その方たちを通して、人間というものは、どういった生き物なのかを皆さんと一緒に考えたいと思います。」と話されました。

セミナータイトルの、「人間というのはどのような存在なのか」について話しをするにあたり、高谷氏は、重症心身障害の方の様々な状態を知ってもらいたいとの願いから、多数の画像を用意されました。画像を拝見すると、寝たき

りの方、耳が聞こえない方、人工呼吸器が必要な方など様々です。目が虚ろで、表情が現れにくい方も見かけられましたが、手や腕を、泡やお湯の中に入れると、とたんに表情が和らぎ、笑顔が現れる画像が目にとまります。その気持ちのよさそうな表情がとても印象的です。高谷氏は「泡やお湯だけではなく、植物系の小豆なども気持ちいいみたいです。」と解説を加えました。

この様に、重度の肢体不自由と知的障害とが重複した彼ら、彼女たちと、障害の無い人との間に、感覚的な違いがあるのでしょうか? これを踏まえ、「人間とはどういう生き物なのか」という高谷氏の考察を伺いました。その考察内容は以下の様なものです。

#### 1. 信頼

「そのままの」自分ではなく、「ありのままの」自分を出せること。びわこ学園の障害をもった子どもたちは、職員を信頼し、ありのままの自分をさらけ出さなければ生きていけない状況だったりします。逆に、職員や環境に信頼が持てなければ、「不安」や「恐怖」から死に至ることもあります。信頼が持てるということは、周りにも優しくなれ、向上心も芽生えることにも繋がります。

#### 2. 希望

希望とは、「そのまま」の心ではなく、「ありのまま」心を出せる相手の存在があるということ。信頼できる人へ気持ちを寄せる想い。

#### 3. 「分かる」

日本語の「分かる」には、「理解すると」と「感じる」の二つの意味が含まれています。「分かる」は相手のことを思いやるという気持ちに通じています。

#### 4. たちまち変わる

周りの大人が本当に自分の味方だと知ったとき、人はたちまち変わります。変化は限りない善意や



- 1 ゲスト講師の高谷 清氏
- 2 映像で解説をする高谷氏
- 3 第一びわこ学園を支援するための資金作りとして1987年にスタートした「抱きしめてBIWAKO」。1周235kmもある琵琶湖を、手を繋ぎ抱きしめるプロジェクトの記録映像を鑑賞
- 4 50年前の貴重な記録映画「夜明け前の子どもたち」より
- 5 映画「夜明け前の子どもたち」より



他と共感する心、向上する意欲として現れます。

#### 5. 人間の存在

人間の命は、身体、心、脳の3つが組み合わさって構成されています。どれかだけが比重が重いわけではありません。

#### 6. 快と不快

身体の状態が良く、気持ちよければ、心も気持ちいい。人間関係がいい状態だと、生きて行く上でとても気持ちがいい状態といえます。

続いて、赤ちゃんについての考察です。赤ちゃんはなぜ生まれてすぐに「笑う」のか。赤ちゃんはなぜ「まね」をするのか。なぜ仰向けで眠るのか。生まれてくるとき、なぜ大声で産声を上げるのか。このように、自然界とはま逆だったりする行為が、人間の赤ちゃんにはたくさん見受けられます。まだ解明されていないことばかりで

すが、やはり生きること自体が気持ちいいから「笑い」、コミュニケーションのために「まね」たりするのではないかと高谷氏は考えます。この赤ちゃんの考察から、赤ちゃん=弱生き物の「人間」は、自然界で生き残り、変化していくために、仲間通しで助け合う必要があった。そのため、人は「協力」し合い、食べ物を「分配」し、互いのことを理解して「共感」することが求められたと考え、人間は「共感」する生き物だと高谷氏は結論付けました。

最後に、私たちが直面する大きな問題として、理性や自意識があるのが人間とする「パーソン論」の危険性や、TPP(環太平洋パートナーシップ協定)の締結による医療制度の危機。高齢者、障害者が医療を受けづらくなる可能性のある「尊厳死法」などについて、もっと関心を持つようにと訴えか

けました。

第2部では、高谷氏が園長を務められた「びわこ学園」で重症心身障害児たちが一生懸命生きる姿

を映し出した映画『夜明け前の子どもたち』を鑑賞しました。この50年前のモノクロフィルムには、当時の日本の姿をはじめ、障害を

持った子ども達、その親、職員たちの、悩み、戸惑いと希望が、しっかりと焼き付けられています。鑑賞した人たちは、障害者が生き

ていきやすい環境を作っていくことが、社会を成長させていくことだと感じ取ったのではないのでしょうか。

### 音楽学部

#### 音楽学部同窓会主催 第31回 新人演奏会が 行われました

2012年5月16日(木)、名古屋伏見の電気文化会館ザ・コンサートホールにおいて、本学音楽学部の同窓会が主催する第31回目の新人演奏会が開催されました。

この演奏会は、本年3月に名古屋芸術大学を優秀な成績で卒業し、それぞれの分野でその将来が嘱望されている人たちが出演し、毎年この時期に行われています。卒業して間もない若き演奏家の皆さんには、この演奏会を契機としたより一層の飛躍が期待されています。プログラムは、ピアノが2名、



ソプラノ2名、フルート、電子オルガン、コントラバスが各1名で、合計7名の新人演奏家が出演しま

した。家族や友人の見守る中、晴れ舞台での堂々とした演奏に会場から

大きな拍手が送られていました。

### 音楽学部 人間発達学部

#### 2012年度 音楽学部・人間発達学部 教育懇談会が 開催されました

5月29日(木)、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、2012年度の音楽学部・人間発達学部合同の教育懇談会が開催されました。

この懇談会は、大学に学生を送り出す側の高等学校と、学生を教育指導して就職や進学させる大学側の両者が、お互いの意思疎通を図り、連携や協同するために行われているもので、毎年この時期に開催されています。地元の愛知県をはじめ、岐阜県・三重県など東海地区の高等学校からたくさんの先生方をお迎えし、懇談会がスタートしました。

冒頭で挨拶に立った竹本義明学長は、昨今の本学の取り組みや話題についてふれ、全学共通科目(総合教育科目)を配した新カリキュラムがこの4月からスタートし、学生のニーズに応じた多様な科目が選択できるようになったこ

と、また広報や学生支援活動を強化していること、DATA BOOKを製作し、情報の公開を積極的に行っていることなどを話されました。さらに、名古屋音楽学校と連携して相互の音楽活動の進展をめざしていることや、朝日新聞出版発行の2013年度版大学ランキングで、本学が「資格、採用試験(教員)」の採用部門で、複数の項目でランクインしたことなどを話題として提供されました。

この後、堀田秀雄音楽学部長と佐藤勝利人間発達学部長の挨拶があり、続けて、両学部の概要に関する説明が行われました。

音楽学部は山田純教授が音楽学部の学科・コース編成や、教育内容とその特色などについて説明しました。この4月からアートマネジメントコースが開設されたこと、世界の第一線で活躍するアーティストを客員教授や専任教授として招聘して公開講座を実施していること、様々な演奏会を数多く開催していること、さらに、音楽総合コースを設置している理由や社会貢献活動を各地で実施しているこ



となどが説明されました。人間発達学部は阿部孝准教授が学部の概要として、学生の姿やイメージ、学部の役割、学生の育ちのステップなどについて、映像資料を写しながら解説しました。学生たちを教育者・保育者の専門家として責任を持って社会に送り出していることが説明されました。次に、菅嶋康浩学生部長からキャリアサポートと奨学金制度について説明が行われました。最初に、奨学金および表彰制度についてお知らせしました。続いて、就職支援について1年から4年次までの具体的な内容について、イン

ターシップとキャリアデザイン講座について、そして、新入生サポート企画のイベントや新入生フレッシュマンキャンプなど、本学の木目の細かいサポート体制を説明しました。

最後は、司会から本年度のオープンキャンパスと音楽講習会、そして演奏会のスケジュールをご案内して、懇談会を終了しました。

この後、懇談会は別室に席を移してご出席の先生方と本学の関係者で個別の質疑や相談が行われました。会場では質疑応答が活発に行われ、実りある懇談会となりました。

### デザイン学部

#### 2012年度 A&Dセンター企画展 BITE-SIZE 日英テキスタイルアート 交流展が開催されました

2012年5月11日(金)から23日(木)まで、名古屋芸術大学西キャンパスアート&デザインセンターにおいて、本年度の企画展である「BITE-SIZE 日英テキスタイルアート交流展」が開催されました。本学の姉妹提携校である英国ク

リエイティヴアーツ大学のレスリー・ミラー教授は、永年に渡り日本とイギリスのテキスタイルアートの交流をテーマとした展覧会を継続的に企画してきました。本展は、ミラー氏のこうした活動の集大成ともいえる日英を代表す

るテキスタイルアーティスト51名によるミニアチュール作品展です。昨年ロンドン(大和ジャパンハウス)で開催され、その後京都(ギャラリーギャラリー)へ巡回、本学での開催が最終の展覧会となりました。



20世紀後半に欧米で確立され、日本でも浸透したテキスタイルアート。それぞれ独自の発展を遂げてきた日本とイギリスのテキスタイルアートは、柔軟な発想によって既成の概念を超え、繊維素材の持つ可能性と向き合い幅を広げてきました。このたびの展覧会により、染色や織物の歴史の深いこの地で、25センチ四方に込められたテキスタイルアートの多彩な世界がアーティストたちによって披露されました。

期間中12日(土)には、レスリー・ミラー教授による特別講義と、京都インターナショナルコンテンポラリーテキスタイルアートセンターの川嶋啓子氏との対談、また本学学生や来場者との質疑応答が行われました。

講義でミラー氏は、これまでキュレーターとして関わってきた数多くの作家や展覧会について、作品写真を通して解説しました。英国で最も成功したテキスタイル展覧会となった2001年に行われた展覧会textural spaceに84,000人が来場したことなど、自身が関わってきた様々な展覧会や多くのアーティストたちを紹介しました。

続いて行われた対談は、川嶋啓子氏の質問に対してミラー氏が答えるかたちで進行了しました。

日本や日本のアーティストに対する印象としてミラー氏は、日本のテキスタイルアーティストに非常に暖かく迎えていただき、受け入れていただいたことで、日本に

対する理解を深めていくことが出来ました。また、日本のアーティストの皆さんは、総じて素材に対する理解が深いように感じます。作品のコンセプトより技法が重要といった印象を受けています。

また、多くの海外のアーティストを招聘して展覧会をキュレートするときのスタンスは、という問いに対しては、私は、アーティストにインタビューするときは出来るだけアーティストが住んでいる場所を訪問することにしていて、どういう状況のなかで、どのようにやっているのか、なぜやっているのか、コンセプトはどうなっているのか、などを確認するようにしています。私の企画する展覧会は、常にコンセプトをクリアにしているの、アーティストの皆さんにも展覧会のコンセプトを理解してもらうように努めています。というお話でした。

最後に行われた本学の学生や来場者の皆さんとの質疑応答では、「テキスタイルアートとは何か」という最も初歩的な質問から、「なぜ、25センチ四方の小さいサイズの作品展にしたのか」、「テキスタイルを学ぶ上で一番大事なことは」、「テキスタイルだからこそ出来る表現とは何か」、「日英の作品それぞれの違いや良さは」など多くの質問が出されました。

テキスタイルは生活や人生を語ってくれます。テキスタイルは科学とは異なり、私たちの肌感覚でストーリーをつくるものです。

テキスタイルを学ぶ上で大切なことは、素材をよく理解すること、自分に正直になること。とのことでした。

なお、展覧会開催中には、同時開催として、本学とクリエイヴアーツ大学両校のテキスタイルデザインコースの学生による交流展(NUA×UCA)も開催されました。

本学から3名、UCAから2名の選ばれた学生の作品が展示されました。

日英を代表するテキスタイルアーティストの作品と、NUA&CUAの学生の作品が一堂に展示された今回の展覧会、期間中には大勢の来場者で賑わいを見せていました。



- 1 対談の様子(左:川嶋啓子氏、右:ミラー教授、中央は通訳)
- 2 作品写真を写しながら講義するレスリー・ミラー教授
- 3 シェアセッションで乾杯するミラー教授(中央、右は本学の扇准教授)
- 4 ギャラリー BE会場風景
- 5 学生交流展の作品
- 6 7 展示作品



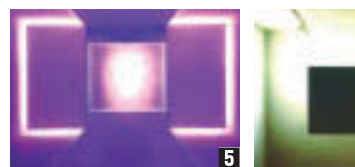
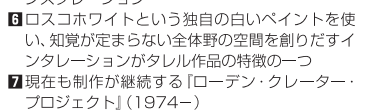
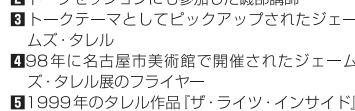
## 美術学部

### アート×トークvol.3 「ジェームズ・タレル」作品の魅力を語る

【講師:竹葉 丈氏】

学生と教員の有志によりスタートしたアートに関する勉強会「アート×トーク」が、2012年5月16日(木)、名古屋芸術大学西キャンパスで開催されました。今回で3回目を迎えた「アート×トーク」のゲスト講師には、名古屋市美術館の学芸員を務める竹葉 丈氏をお迎えしました。竹葉氏が1998年に名古屋市美術館で開催した、「ジェームズ・タレル展」が今回のトークテーマです。

1943年生まれの米国人アーティストであるジェームズ・タレルは、アメリカ現代美術を代表する作家の一人です。60年代後半から、一貫して光に対する関心と、従来からの美術の枠を超えた、スケー



ルの大きなコンセプトによって高い評価を得ています。彼の最大の作品であり、ライフワークでもある、アリゾナ州ペインテッド砂漠にあるローデン・クレーター(火

山の噴火によってできた直径約300m、高さ200mのすり鉢状のクレーター)は、その底から、宇宙のパノラマを眺めるといふ最大級のランド・アート作品として知ら

れています。また、国内では、1995年に水戸芸術館個展、1997~1998年には、埼玉県立美術館、名古屋市美術館、世田谷美術館を巡回する個展が開催されました。

近年では、越後妻有や金沢21世紀美術館、地中海美術館にて恒久作品を観ることができます。

セミナー前半では、竹葉氏よりジェームズ・タレル作品の解説と考察が行われました。そして、NHK制作のテレビ番組『光の芸術で宇宙を感じる』（2001年作品）を鑑賞。この番組では、タレルの光と空間を題材にした作品と、巨大なローデン・クレーター作品

を中心に詳しく紹介されています。この番組の中でタレルは、「目の前にある物は、目の後ろから来る」という言葉を投げかけています。それは、彼の作品の根底にある考え方で、光は脳の中にあり、頭の中で作りだされているものだという考えに基づくものです。

後半では、この勉強会の運営チーム代表の磯部 聡（美術学部美術学科造形コース非常勤講師）

をはじめ、久野利博（デザイン学部デザイン学科メタル&ジュエリーデザインコース教授）、西村正幸（美術学部美術学科アートクリエイターコース・版画コース教授）が加わり、竹葉氏とのトークセッションが行われました。特に磯部講師は名古屋美術館で行なわれた「ジェームズ・タレル展」のサポートメンバーとして、タレルを身近で見ていた一人。前半の

テレビ番組の解説の中でも触れましたが、タレルの作品には、彼の宗教観に基づく精神性や宇宙観なども反映されています。また、竹葉氏や磯部氏が展覧会を通じて実際に接した生身のタレルの人物像についても触れられました。トークセッションでは、タレルの活動とともに、60~70年代のアート状況についても語られ、有意義な意見が交わされました。

## デザイン学部

### 特別客員教授

### 檜原 由比子氏の

### ワークショップがスタート

本年度もデザイン学部特別客員教授の檜原 由比子氏によるワークショップがスタートしました。ヴィジュアルデザイン選択コースの授業「デザイン実技Ⅲ-2」として、全4コマで構成されるこのワークショップ。最終週（7月16日）は、オープンキャンパスの公開講座として、高校生やその保護者など、来場者を交えた作品プレゼンテーションと講演会も行ないます。

その1回目のワークショップが、2012年5月11日（金）、西キャンパスで開催されました。当日は、檜原由比子氏より資生堂の歴史とデザインへの取り組み、自身の作品紹介を交えたデザインの制作プロセスの講義をしていただきました。充実した内容に学生達は耳を傾け聞き入っていました。講義の後に今回の課題の説明が行われました。テーマは昨年に続き「生活を豊かにする新しい視点を持ったカレンダーをデザインする」です。

この課題では、既製のカレンダーの枠に囚われることなく、自由な発想でカレンダー作りに取り組みます。2013年の1年分のカレ

ンダーを作成するに辺り、日めくりや1カ月、1年といった区切りに対する仕様制限はありません。そして、素材や形態（平面や立体、映像など）の決まりもありません。唯一の縛りは、新しい視点を加えること、生活を豊かにする要素が盛り込まれていることです。

このワークショップの課題の1つとして、グループワークによる作品作りが上げられます。グループメンバーで、アイデアを練り、意見を交わしながら、1つの作品を作り上げて行くというプロセスは、実際のデザインの現場を疑似体験する良い機会といえます。異なる意見に耳を傾け、調整を行なう難しさや、共同で1つの物を作り上げて行く喜びなど。学生たちにとっては貴重な体験です。

檜原氏からオリエンテーションを受けた学生たちは、カレンダーのイメージを膨らますため、檜原氏が日頃から活用している「イメージ・フラッシュ」を体験。この方法では、3色の付箋紙を使いグループのメンバー全員で、「目的」、「環境」、「新しい視点」を思いつくまま素早く書き出していきます。その付箋紙をワークシートに貼りながら、意見を整理し、アイデアをまとめて行くのに役立つアイデア整理法です。このプロセスを経由することで、方向性が明



1 株式会社資生堂クリエイティブディレクターの檜原由比子氏。ACC賞をはじめ、準朝日広告賞、グッドデザイン賞など多数の受賞歴を持つ。(社)日本ディスプレイデザイン協会理事も務める

2 オリエンテーションを受ける学生たち。写真中央は担当教員の永井講師

3 課題説明に先立ち、檜原氏のプロフィールと、氏の手掛けた資生堂ウインドディスプレイの作品解説が行われた。画像は檜原氏のウインドディスプレイ作品の1つ

4 5 グループに分かれイメージ・フラッシュに取り組む学生たち

6 学生たちに的確にアドバイスやヒントを贈る檜原氏



確化され、思いがけないアイデアを生み出すこともあります。学生たちはこのイメージ・フラッシュに夢中に取り組みました。毎年、ユニークで斬新な力作が揃うこの

テーマ。このイメージ・フラッシュに秘密があるようです。今までには無い新しいカレンダーの登場に期待が高まります。

## Column NUA No.17

### 葛飾北斎と名古屋

音楽学部教養部会教授 岸野俊彦



葛飾北斎の『富嶽三十六景』の中に、「尾州不二見原」がある。画面中央に大きな樽を配置し、中で桶職人が作業をしており、遠くに富士が見えるという絵である。現在の名古屋市中区富士見町である。

北斎は、文化九年（一八一二）に半年ほど弟子である尾張藩士牧墨僊宅に滞在して、多くのスケッチを描いている。これが、『北斎漫画』初編として文化十一年に名古屋の本屋永楽屋東四郎と江戸の角丸屋甚助の共同出版として刊行された。北斎は文化十四年に再度名古屋に来て一年ほど滞在した。十月五日には、永楽屋の依頼で宣伝のた

めに西本願寺別院の境内で畳百二十畳分の紙に大達磨を描くという実演を行っている。北斎は永楽屋から相当額の謝礼をもらったと思うが、その十一日後の十六日に、永楽屋に二兩二歩の借金をしている。写真の書状は、その時の借用証文付の北斎書状である。自分のことを「へくサでござります」と頭を下げた絵をそえている。北斎の人間くささを見ることができる。

「尾州不二見原」の富士は、都合一年半の名古屋滞在中に描かれたものであろう。

尾張藩は木曾の山を支配し、豊かな材木は切り出され、筏で木曾川を流し、熱田の白鳥貯木場に



グループ校特集

名古屋芸術大学附属  
クリエ幼稚園

附属の利点を活かした  
大学各学部との交流

名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園は、creative（創造的な）の意味から園名がつけられました。外観は木造でとんがり帽子のような屋根、園内も木造で部屋がすべて六角形になっており、木の温もりが感じられる幼稚園です。大学に隣接し、附属ならではの交流もあります。入園式と卒園式では音楽学部を卒業された方々により、ヴァイオリン・ピアノ・チェロの生演奏をしていただきます。また、大学の音楽講堂で吹奏楽を聴かせていただく機会も設けています。本物の音楽を聴くことが子ども達の感性を育てる上で、大事なことのひとつだと思います。12月に行う「発表会」では、子ども達は遊戯などの発表も音楽講堂で行っています。大学の美術学部の先生や学生の方々は、年長児が版画や紙漉きなど大学の施設をお借りして作品作りをしています。将来、保育所・幼稚園・小学校の先生を目指している人間発達学部の学生さん達は、授業の一環として幼稚園で子ども達と触れ合う機会を持っています。また、ゼミの中では子ども達と一緒にゲームをしたり、体操をしたり、学生さん達が作った人形劇を見たりなどの交流もあります。学生さん達も子ども達とかかわることで、彼らの現実の姿から学ぶことも多く、子ども達もいろいろな人にかかわる力が育っていると思います。

自立心と協調性を養う  
多彩な年間行事

幼稚園では一年間にいろいろな行事があります。

4月、家庭中心の生活から離れて、社会生活の始まりである『入園式』を迎える新入園児。そして気持ちも新たに学年が一つ大きくなる『始業式』を迎える在園児。

5月、庄内緑地公園で春の新緑を体で感じ、新しいクラスの友達や先生と一緒に体操をしたり、スタンプラリーをしたりする『親子遠足』。

6月、大学の体育館をお借りして子ども達とお家の方々と一緒に体を動かしたり、ゲームをしたりする『親子ふれあいデー』。

大学の音楽講堂での吹奏楽演奏を聴かせていただく『親子で吹奏楽を楽しもう』。

7月、何曲もの踊りを覚えて子ども達もお家の方々も地域の方々も参加していただく『クリエまつり』。

9月、子ども達の自分のおじいちゃん、おばあちゃんに幼稚園に来ていただき、一緒に遊んだり、クラス全員での歌を聴いていただく『おじいちゃん、おばあちゃんと遊ぶ日』。

10月、遊戯や競技、かけっこなど日頃の練習成果をお家の方々に見ていただく『運動会』。

観光バスで出かける『秋の遠足』。

12月、遊戯や劇など、歌ったり踊ったりする表現活動をお家の方々に観ていただく『発表会』。

2月、クラスみんなで歌を歌ったり、楽器の演奏をしたりしてお家の方々に観ていただく『おんがくかい』。

3月、幼稚園生活の締めくくりである『卒園式』。

他にもその時期ごとに行なう行事もいくつかあります。

行事は幼稚園生活の自然の流れの中に変化を与え、子ども達が主体的に楽しく活動できることをねらいとして行われています。

行事を通して子ども達が自分なりに頑張ることや、クラスみんなと協力することもできるよう力を

を身に付けていきます。



集められ全国に売り出された。この豊かな材木は、名古屋城下に多くの木工職人を生んだ。尾張・三河・美濃には多くの酒造や味噌蔵があり、巨大な樽の需要は多かった。北斎は、これこそが名古屋を象徴するものとして、画面の中心に据えたのであろう。

「不二見原」からは、実際には富士は見えない。遠くに配した富士は、冬になると雪を抱いて秀麗な姿を見せる「御岳」を見立てたのであろう。リアルな絵画とは、事実ではなく、作家の頭脳を通して、事実以上の豊かさを表現するものであることを、この絵は示している。





# マスター ↑↓to アーティスト



『フランチェスコ：知らずにいた記憶(清貧)(従順)(純潔)』2011

## 【第17回】

### < 作品は人なり >

西村正幸

(にしむら まさゆき)

大学院美術研究科 美術専攻  
美術学部  
アートクリエイターコース  
版画コース 教授

- 1957年 奈良県生まれ
- 1981年 京都精華大学美術学部デザイン科卒業
- 1983年 京都市立芸術大学大学院美術研究科  
絵画専攻版画修了
- 1996、 日航財団「空の日芸術賞」のスカラシップで  
1997年 ドイツに研修

学生時代から京展に版画を出展、2度の入賞を果たす。1983年の初個展以降、兵庫県立近代美術館「アート・ナウ」、関西若手作家たちによるムーブメント「YES ART」に参加、80年代の「関西ニューウェーブ」の流れを汲む作家として活躍。90年代以降は、戦争被害へ強いメッセージ性を持つ作品を発表し続ける。

版画をベースとした、絵画、立体、インスタレーションとジャンルの枠にとられない作品。見た目には優しげだがどれも強烈なメッセージを帯び、見る者にストレートに伝わるダイナミズムを持ち合わせている。柔らかかいて直線的な、ユニークな作品の根源はどこにあるのか。「オリジナリティって何？ 学生にも言うんですが、自分の中から待って出てくるもんじゃなくて、絶対、人からもらったものやと。見たり、聴いたり、やったりしたことが自分の中に溜まって、全然違う人の考えなんか自分の中でひとつになったとき、そのときに自分のオリジナリティになると思うんですよ」

作家が産み出したものには、意識的であれ無意識であれ、作家自身の考えや問題、経験などが投影されているものである。優しくも激しい作品たちの始まりの場所を伺ってみると、少年時代のことを話し始めた。

屈託のない柔らかな関西弁で饒舌に語られる現在にいたる道のりは、興味深いものだった。スカウトが来るほどの野球少年、小学校でオペラに目覚め(悲恋もの!)作曲家を目指したこと、肩を壊して野球ができなくなったこと、目標を失い心がズブズタになった10代、キリスト教との出会い、大学でたたき込まれた自由、先生たちとの諍い、関西ニュー

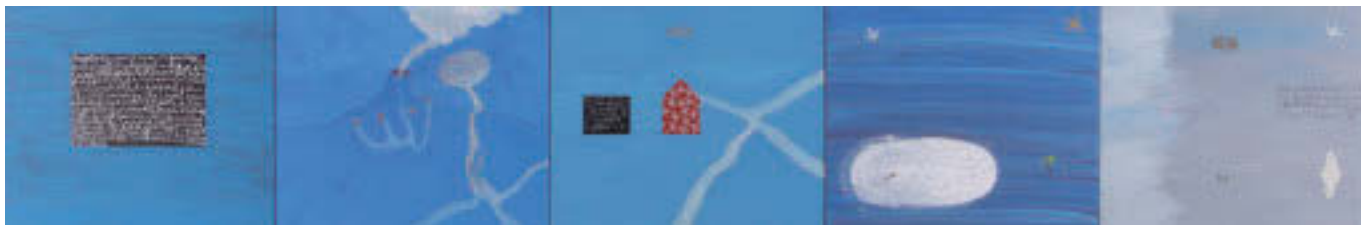
5才ころ「たのしい幼稚園」に掲載された電車の絵



高校3年生の時の夏の高校野球大阪府予選で投手として投げている写真

ウェーブ、伝えることの難しさ、伝わることの大切さ、版画、デザイン、吉原英雄、井田照一、山本容子……、すべてを伝えられないことが残念でならないが、これまでの人生すべてが糧になり、ストレートに作品の血肉になっていることが理解できる。「文は人なり」ではないが、「作品は人なり」ということをあらためて強





『相応しい言葉』シリーズ 2010 各49×60cm×5点 紙にアクリル・ガッシュ、他 撮影：山口幸一



『ハンガー・ゼロ・アフリカ#1』  
～知らずにいた記憶～  
2010 230×185cm 綿布にアクリル・ガッシュ、他  
撮影：山口幸一



『ハンガー・ゼロ・アフリカ#2』  
～相応しい言葉を光の中に探す～  
2010 165×134cm 綿布にアクリル・ガッシュ、他  
撮影：山口幸一



『Art & Eco マッチング・プロジェクト』  
展示風景  
2010 名古屋市民ギャラリー矢田  
撮影：山口幸一



『西のはずれ～東と南と西と北と (イラク・チルドレン#78)』  
2007 77×64×180cmの字型黒板4台、他 木に黒板塗料、チョークなど  
撮影：山口幸一

- |  |  |
|--|--|
| <p>1983年 リュブリアナ国際版画ビエンナーレ (旧ユーゴスラヴィア)<br/>YES ART (ギャラリー白、大阪)・・・84年～90年まで毎年。<br/>フレンヘン国際版画トリエンナーレ (ドイツ)</p> <p>1984年 ノルウェー国際版画ビエンナーレ</p> <p>1986年 アート・ナウ '86 (兵庫県立近代美術館)</p> <p>1987年 NEO GRAFICA (ギャラリー白)・・・90年まで毎年。<br/>YES ART DELUXE (佐賀町エキジビット・スペース、東京 / ギャラリー白)</p> <p>1989年 ARMS 芸術の腕 (ハイネケン・ビレッジ・ギャラリー、東京)</p> <p>1990年 FROM OUR HEARTS アパルトヘイトに反対する美術展 (岐阜県美術館ギャラリー)</p> <p>1993年 エジプト国際版画トリエンナーレ招待出品 (国立美術館、ギザ)</p> <p>1994年 現代の版画 1994 (渋谷区立松濤美術館)</p> <p>1995年 The Tree, Part II (Sasakawa Peace Foundation Gallery, Washington D.C. U.S.A.)</p> | <p>1996年 International Work-shop for Visual Artists '96 in REMISEN-BRANDE<br/>(The City Hall of Brande, Denmark)<br/>トピカ：日本の現代美術が1100年のハンガリーに挨拶する<br/>(エステルゴム王宮博物館、エステルゴム/フェシュテイチ宮殿博物館、ケストヘイ、ハンガリー)<br/>1996.6～1997.3日航財団『空の日芸術賞』を受賞し、ドイツに研修。</p> <p>1999年 INAZAWA・現在・未来展④ここからうまれるかたちという 古川清・西村正幸<br/>(稲沢市荻須記念美術館)</p> <p>2000年 名古屋市民芸術奨励賞受賞</p> <p>2007年 「いのちを考える」"世代を超えて"～西村正幸とともに (伊丹市美術館)<br/>The 4th International workshop "DRAWING" in Hannover (ドイツ)</p> |
|--|--|



京都市立芸術大学大学院の時の研修旅行時の写真 (左端が非常勤講師の山本容子、その隣が西村、右から2人目が主任教授の吉原英雄)

く感じさせる。

「アートの役割のひとつに、メッセージを伝えられるというのがあると思っています。そして、誰かのためにアートがあってもいいんじゃないか、とも思っています」これまで、自分のいたいことを表現するのがアートと

考えられていたが、例えば、戦火に巻き込まれた子ども、あるいは、病理を受け入れるほかない患者、そんな誰かのためのアートも存在できるはずと考えた。誰かを大切に思う気持ち、「寄り添う心」が端緒となった作品作りもアートの一部だということ。作品ごとに手法が変わることも、まず表現したいテーマありき、の結果である。自分にできることをできるだけやりたい、そんな素直な気持ちが伝わってくる。

「アーティストはひとりで作るものと思っていたのですが、僕は早い段階で違うということがわかった。特段、鋭かったとかじゃなくて、たまたま巡り合わせ

でね」大学院修了直後に開いた初めての個展で強く感じたという。「ギャラリスト、先輩の作家、新聞や雑誌の記者、ひとつの個展でもいろんな人が関わっていることが見えた」90年代のアート界、とりわけエネルギッシュだった関西のアート界には、若手を育てようという気風が色濃くあった。その中でさまざまな経験をし、大いなる刺激を受けた。そして、次の世代を育てる立場になった。同じ経験をしたアーティストたちに、気風はしっかりと受け継がれているようだ。表現に、作品に、あるいは将来に迷ったとき、安心してぶつかっていける確かな存在。熱く真っ直ぐな心根に、晴れやかな気持ちになった。



■木村美奈子  
(名古屋芸術大学デザイン学部  
部教養部会講師)共著  
「子どもの心的世界の  
ゆらぎと発達」  
―表象発達をめぐる不思議―  
(ミネルヴァ書房)



■木村美奈子  
(名古屋芸術大学デザイン学部  
部教養部会講師)共著  
「資料でわかる  
認知発達心理学入門」  
(ひとなる書房)



■西村和泉  
(名古屋芸術大学美術学部  
教養部会講師)共著  
岡室美奈子 川島健 長島確編  
「サミュエル・ベケット!」  
―これからの批評―  
(水声社)

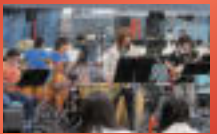


■岸野俊彦  
(名古屋芸術大学音楽学部  
教養部会教授)編著  
「愛知県史 資料編20」  
学芸 近世6  
(愛知県)



■舟橋三十子  
(名古屋芸術大学音楽学部  
音楽文化創造学科教授)著  
「クラシックの聴き方入門」  
―名曲のスタイル分析  
全80曲―  
(ヤマハミュージックメディア)

## 2012年度 オープンキャンパス 日程



- 音楽学部  
9月30日(日) 10:00～
- 美術学部・デザイン学部  
7月16日(月・祝) 10:00～
- 人間発達学部  
7月21日(土) 10:00～
- 一日芸大生  
8月25日(土) 10:00～
- 9月30日(日) 10:00～
- 7月29日(日) 10:00～



## アート&デザインセンター 2012展示会スケジュール (7月～11月)

※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。  
(入場無料)となっても、買いいただけます。  
お問い合わせ先 / (0568)2410325

7月 6日(金)～ 7月11日(水)	2012年度 前期交換留学生作品展
7月13日(金)～ 7月18日(水)	洋画2コース2年生学生選択展
7月13日(金)～ 7月18日(水)	タイ・バンコクの姉妹校 スリナカリンウィット大学教員交流展
7月20日(金)～ 7月25日(水)	洋画1コース3年 展
7月27日(金)～ 8月 8日(水)	素材展
9月21日(金)～ 9月26日(水)	To Soft Sculpture展
9月28日(金)～10月 3日(水)	彫塑コース作品展
9月28日(金)～10月 3日(水)	雨の日を楽しくするデザイン
9月28日(金)～10月 3日(水)	有田文庫
10月 5日(金)～10月10日(水)	アーツ!ラジオ & 大学院同時代表現研究 展
10月12日(金)～10月17日(水)	「ノリ・モリモト」展
10月19日(金)～10月24日(水)	「遭遇するドローイング; ハノーファー&名古屋2012」展
10月26日(金)～10月31日(水)	大学院洋画制作2012
11月 2日(金)～11月14日(水)	2012年度企画展 Open your eyes-生きる術としてのアート-
11月16日(金)～11月21日(水)	MCD デパートメント
11月23日(金)～11月28日(水)	「幼稚園児たちのゲイジツ」展
11月23日(金)～11月28日(水)	「Hand Hospeace; 医療と美術」展
11月30日(金)～12月 5日(水)	「AFTER DENMARK;坂本麻貴×鈴木京」展



Open / 12:15～18:00 (最終日は17:00まで)  
日曜・祝祭日原則休館  
(7月16日、9月30日は開館)  
詳しくはお問い合わせ下さい。

## 2012年度 音楽学部演奏会スケジュール (7月～11月)

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。  
お問い合わせ先 / (0568)2415141

7月	コンチェルトの夕べ 日時/7月12日(木) 18:30開演予定 会場/三井住友海上 しらかわホール 入場料/無料 (全自由席 整理券あり)	
8月	第14回 ピアノ・サマーコンサート 日時/8月9日(木) 17:30開演予定 会場/名古屋芸術大学3号館ホール 入場料/無料 (全自由席 整理券あり)	NUA Strings 第5回定期演奏会 日時/8月30日(木) 18:00開演予定 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール 入場料/前売2,000円・当日2,500円
9月	ウィンドオーケストラ第31回定期演奏会 日時/9月27日(木) 18:30開演予定 会場/愛知県芸術劇場コンサートホール 入場料/1,000円 (全自由席)	
10月	研究生特別演奏会 日時/10月11日(木) 18:00開演予定 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール 入場料/無料 (全自由席 整理券あり)	オーケストラ第30回定期演奏会 日時/10月19日(金) 18:45開演予定 会場/愛知県芸術劇場コンサートホール 入場料/1,000円 (全自由席)
11月	第20回 ピアノの夕べ 日時/11月8日(木) 17:30開演予定 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール 入場料/無料 (全自由席 整理券あり)	音楽学部第35回定期演奏会 日時/11月15日(木) 18:00開演予定 会場/三井住友海上 しらかわホール 入場料/無料 (全自由席 整理券あり)



### 表紙の写真

久野 利博先生  
(デザイン学部 メタル&ジュエリーデザインコース  
/大学院 デザイン研究科)  
研究室風景



[Untitled 1992-October]

お気に入りのオブジェに囲まれる久野利博教授。  
造形の面白さに加え、ひとつひとつに出会いがあり、そのゆかり話も興味深い。  
オブジェたちは、インスタレーション作品に使われることもある。  
ものたちに宿る物語は尽きない……  
研究室にて。(5/15撮影)

発行:名古屋芸術大学  
編集:全学広報誌編集委員会  
制作:(株)クイックス  
発行日:2012年7月10日

【お問い合わせ先】  
名古屋芸術大学 広報企画部  
〒481-8502  
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地  
電話 0568-24-0359  
FAX 0568-24-0369  
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp



## 大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。  
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

[Untitled 1991-3]